

徳島市民病院

初期臨床研修プログラム



守るお仕事。

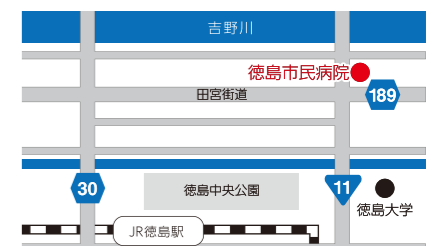
「あたりまえ」を



徳島市民病院

〒770-0812 徳島県徳島市北常三島町2丁目34
TEL:088-622-9323 U R L: <http://www.city.tokushima.tokushima.jp/siminbyoin/>
FAX:088-622-5313 E-mail: kanri@hosp.tokushima.tokushima.jp

病院見学はいつでも お気軽にご連絡を！
徳島市民病院 事務部 総務管理課





寄り添え る存在に

地域住民の方々に
頼られる病院を目指す

現在の徳島市民病院は平成22年に屋上ヘリポートを有する11階建てとして造られ、病床数335床、全職員数約640名の中規模な病院です。これまで、徳島市民病院は95年の歴史を有し、思いやり、信頼、安心を病院の理念のもと、地域の診療を担ってきた基幹病院であります。

診療面では約85名(研修医を含む)の医師とコメディカルの多職種とともに充実したチーム医療を行っています。特に、がんセンター、関節治療センター、地域周産期母子医療センターの3つの三大柱を掲げて、安全で質の高い医療を提供しています。救急医療においても二次救急を中心に、年

間25000台以上の救急車と、9000名程度の救急患者を受け入れております。また、災害時医療においても15名のDMAT隊員を中心に体制を整えております。

また、初期研修医および医学部生の臨床研修病院として、徳島大学と密に連携して、魅力ある研修プログラムを作成し、多くの臨床経験を積んでもらうことを重視しています。当院の研修モットーは「研修は厳しく、しかし楽しく」です。社会に貢献できる常識を持った医師であり社会人に育つように指導を心がけております。是非一度、見学・研修にお越しください。



徳島市民病院
院長
中野 俊次
Nakano Shunji

病院概要

基本方針

一、医療の安全管理を徹底し、患者中心の医療を行います。

一、救急医療を含めた急性期医療と高度で専門性の高い医療を提供します。

一、地域医療向上のため連携を密にし、教育と研修に努めます。

一、災害時の救急患者の受け入れなど災害救急医療に対応します。

一、公共性と経済性に配慮して、経営の安定化に努めます。

医療安全管理

医療現場では、医療従事者のちよつとした不注意が、予期しない状況や、医療上望ましくない事態を引き起こし、患者さまの健康や生命を損なう結果を招くことがあります。

病院および病院職員には、患者さまの安全を確保するための不断の努力が求められており、日々検討を積み重ねる中で、患者さまに実害を及ぼすことのないような仕組みを院内に構築していくことが必要です。

当院では、このような考え方のもとに、職員個人レベルでの事故防止への取り組みと、病院全体での組織的な事故防止対策の二つの対策を推進することによって、医療事故の発生を未然に防ぎ、患者さまが安心して医療を受けられる環境づくりを進めています。



組織体制の整備

医療安全を対当する医療安全対策室を設置しています。また、各診療科や看護単位ごとに医療安全推進担当者（セーフティマネージャー）を配置し、各職場における医療体制の改善やインシデント、アクシデント、クレーム、合併症・副作用情報の収集などにあたらせています。また、セーフティマネージャーなどから構成する安全管理委員会、その下部組織である医療安全管理部会を設置し、各種マニュアル類の検討や、発生したインシデント（※注）やアクシデント、クレームをもとにした業務改善の検討を行うとともに、職員への周知を図っています。

※注 インシデントとは、一歩間違えば事故になる可能性があったような事例のことです。当院では、些細なインシデントであっても報告するよう職員に奨励しており、病院全体で改善策を検討し、全職員に周知することにより、安全管理体制の向上を図っています。なお、インシデントやアクシデントなどの報告を容易にするため電子カルテ上に報告・伝達システムを登録しています。



臨床教育センター
副センター長
堀口 英久
Horiguchi Hidehisa

救急外来

救急外来は地域の医療機関と連携し、役割分担を図りながら、緊急な治療を必要とする患者さま（二次救急）を中心に受け入れを行っています。また院内トリアージを行い、適切な救急対応が行えるように努めています。平成24年よりICLSコースを開催しています。



病床数・診療科など

病床数 335床（一般病床271床、回復期リハビリテーション病床:40床、緩和ケア病床:24床）

- | | | | |
|-----------|--------------|--------|-------------|
| ・内科 | ・腫瘍精神科 | ・腫瘍外科 | ・眼科 |
| ・呼吸器内科 | ・リウマチ・膠原病内科 | ・整形外科 | ・リハビリテーション科 |
| ・循環器内科 | ・外科 | ・形成外科 | ・放射線科 |
| ・消化器内科 | ・呼吸器外科 | ・脳神経外科 | ・麻酔科 |
| ・血液内科 | ・消化器外科 | ・皮膚科 | ・病理診断科 |
| ・糖尿病・代謝内科 | ・甲状腺外科 | ・泌尿器科 | ・臨床検査科 |
| ・内視鏡内科 | ・乳腺外科 | ・産婦人科 | ・心臓血管外科 |
| ・腫瘍内科 | ・大腸・肛門外科 | ・婦人腫瘍科 | （外来のみ） |
| ・血液腫瘍内科 | ・肝臓・胆のう・膵臓外科 | ・小児科 | |
| ・緩和ケア内科 | ・内視鏡外科 | ・耳鼻咽喉科 | |

職員の状況 637人（医師数85人、指導医数48人） ※令和5年4月1日現在。指導医数は指導医養成講習会修了者の人数。

臨床指標
（令和4年度実績）

- 一日平均入院患者数……………233.9人
- 一日平均外来患者数……………431.9人
- 平均在院日数……………10.5日
- 年間手術件数……………3,826件
- 分娩件数……………460件
- 救急患者総数……………6,492件（1日平均17.8件）
- 救急搬送数……………2,612件（1日平均7.2件）

研修プログラム

指導医とのマンツーマン方式を基本とし、各科の研修項目に従って指導を行います。

医師としての人格を涵養し、将来の専門性に關わらず、医学・医療の社会的ニーズを認識し、日常診療で頻繁に遭遇する病気や病態に適切に対応できるように、プライマリケアの基本的な診療能力を身につけることを目的とします。徳島大学病院及び臨床研修協力施設と協力して臨床研修を行います。内科24週、救急部門12週（うち8週は麻酔科4週、2年次の当直勤務4週を換算）、外科8週、小児科8週、産婦人科8週、精神科4週、一般外来4週及び地域医療4週を必修とし、残りは選択必修科及び選択科の研修を計36週行います。地域医療研修では、県内で在宅医療を行っている診療所などで研修を行います。

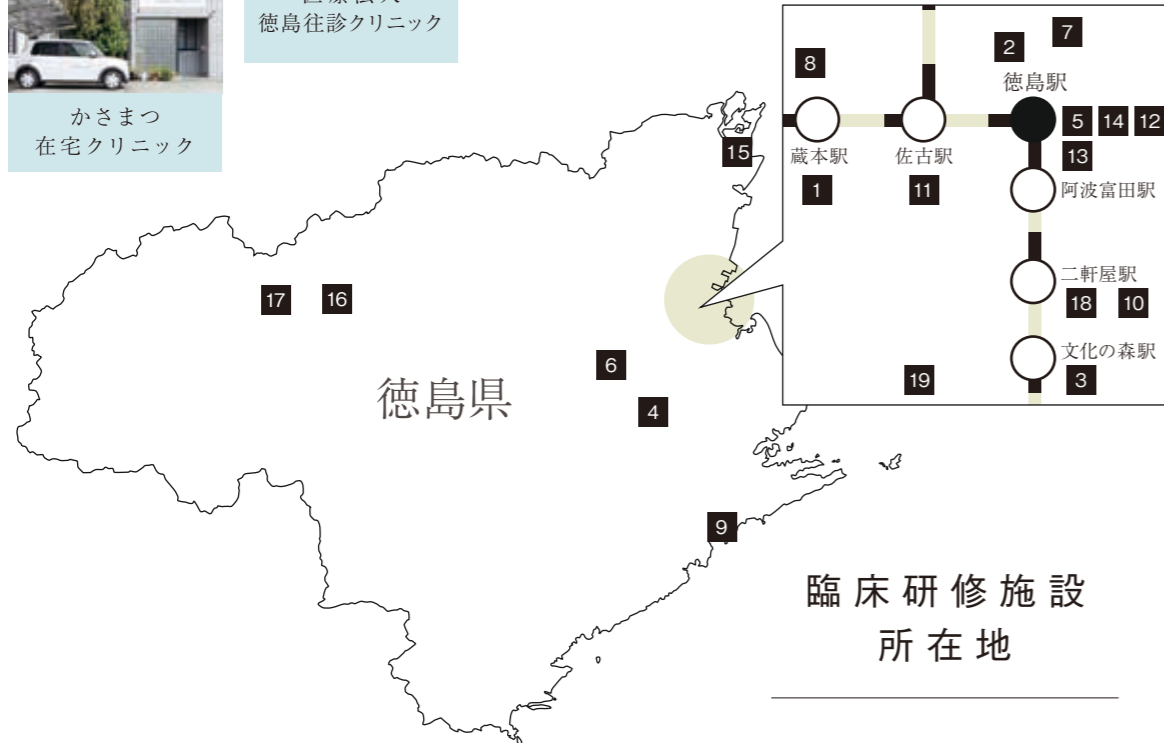
臨床研修施設

（協力病院・協力施設一覧）

協力病院



協力施設



1年次	2年次
68週	36週
必修科目	選択科目
救急当直（週1回程度）	救急当直（週1回程度）
<ul style="list-style-type: none"> 内科24週 救急12週 （うち8週は麻酔科4週、救急当直を4週に換算） 外科8週 	<ul style="list-style-type: none"> 小児科8週 産婦人科8週 精神科4週 一般外来4週 地域医療4週
	<ul style="list-style-type: none"> 内科 外科 脳神経外科 整形外科 小児科 産婦人科 眼科 放射線科 皮膚科 泌尿器科 麻酔科 耳鼻咽喉科 病理診断科

プログラム例 A

1年次	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科 8週	外科 8週	麻酔科 4週	産婦人科 8週	小児科 8週	内科 8週	救急 4週	精神科 4週	救急当直 1回程度/週				

2年次

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域医療 4週	内科 8週	外来 4週	選択科目及び不足必修 36週								
救急当直 1回程度/週											

プログラム例 B

1年次	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科 8週	小児科 8週	産婦人科 8週	外科 8週	麻酔科 4週	内科 16週							
救急当直 1回程度/週												

2年次

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
精神科 4週	地域医療 4週	救急 4週	外来 4週	選択科目及び不足必修 36週							
救急当直 1回程度/週											

経験を積むための

プログラム



臨床教育センター長
岸 史子
Kishi Fumiko

初期臨床研修は、将来の医師としての能力やキャリア形成に大きな影響を及ぼすため、どんな施設でどのような研修を開始するのかは極めて重要です。私自身を振り返ってみても、医師キャリアの1・2年目に学んだこと、経験したことは現在の自分の礎となっておりま

す。当院における必修科目の研修は、内科24週、救急12週（うち4週は麻酔科、4週は救急室研修）、外科8週、産婦人科8週、小児科8週、精神科4週、地域医療4週及び一般外来4週です。地域医療は徳島県下の病院や診療所の協力を

得て、一般外来や在宅医療での研修を行います。必修の研修が終了した残りの期間は、研修医が各自で自由に希望する診療科を選択して研修することができます。

基幹となる内科研修は、一般、消化器、呼吸器、循環器、内分泌・代謝、血液内科に分かれており、専門分野別に密度の高い研修を受けることができます。消化器や呼吸器、循環器内科では内視鏡やカテーテル手技などを積極的に経験してもらいます。外科系の診療科では手術症例が非常に多く、初期研修医にも積極的に手術に参加してもらっています。産婦人科は徳島県トップクラスの分娩数を扱い、小児科とともに周産期医療の中心的役割を果たしており、分娩から新生児医療の経験を豊富に積めます。救急では救急担当医（内科または外科）の指導のもとで初期対応を行います。



初期臨床研修医2年次
原 将巳
Hara Masami

研修医2年目の原将巳と申します。今回は学生の皆様に向けて市民病院での研修のPRをさせて頂きたく筆を取りました。当院の研修は自由で楽しく、かつ学びの連続です。仕事でやっているのにはしからん、との声もあるかもしれませんが、本当のことです。

当院の研修スケジュールは他の研修病院にならって必修の科が定められています。そのスケジュールの組み方は研修医に任せて頂いており、いくつかの時期にどの科を研修するかを自由に選択できるのは、将来の志望科を決めるのにおいても大変助かります。

また、指導医の先生方は優しく指導して下さり、看護師他スタッフの方々も研修医に対して優しく接して下さり和気あいあいとして楽しい



私が思う当院での研修の魅力を述べさせていただきます。ぜひ多くの学生の方に研修病院として選んでいただけたらと思います。

研修病院です。

そして最後に、当院での研修はどの科に進むとしてもとても勉強になると思います。

各科の研修では指導医の先生の指導の下、病棟管理の基礎や基本的な手技を実践形式で学べます。また、医学部で学ぶことの少ない実践知識を学べるので将来どの科に進むとしても無駄になることはありません。

救急当直では指導医の先生とともに救急対応にあたりますが、基本的には、自分で考えながら救急の場に現れる患者さんに対応していくこととなります。これが本当に勉強になります。

私が思う当院での研修の魅力を述べさせていただきます。ぜひ多くの学生の方に研修病院として選んでいただけたらと思います。

キルアップのための徳島大学医療教育開発センタースキルラボでの中心静脈カテーテル挿入や気管挿管、胸腔穿刺などの講習会や、院外から救急医療の専門医を招聘しての勉強会、院内の各診療科が企画した研修医セミナー、臨床検査・病理部門による臨床病理検討会などが定期的に行われ、広域かつ専門性の高い知識を習得できるような機会を数多く準備しています。学術活動も積極的に支援しており、研修医全員が学会発表や論文作成を行っています。

当院は診療科間の垣根が低いことが特徴で、各科の協力体制が構築されており、診療を迅速に進めることができます。さらに上級医と研修医の垣根も低く、科を問わず、上級医にいつでも相談できる環境が整っています。徳島県での研修を希望されている方は、病院見学や研修についていつでもご連絡ください。

これからの長い医師人生において最も大切な最初の一步を徳島市民病院の初期研修医として踏み出してみませんか。皆さんが充実した研修生活を送れるように全力でサポートします。皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています。



初期臨床研修医2年次
阿部 紗也加
Abe Sayaka

はじめまして。研修医2年目の阿部紗也加です。

私は6年生生のマッチング時に徳島市民病院を第一志望としました。その理由は、病院見学の際に研修医の先生方が仕事をされている様子やアットホームな雰囲気を見て、自分もこのような環境で研修したいと感じたからです。各診療科の垣根が低く、分からないことがあれば気軽に相談しやすい雰囲気があり、研修医にとつととても恵まれた環境です。

また、研修プログラムの自由度が高いところも市民病院の魅力の一つです。研修医の希望に応じて自分でスケジュールを決めることができ、1年次に選択科目をローテートすることも可能です。一人ひとりのニーズに合った研修を行えるようサポートしてくれる病院だと感じています。



救急当直では、指導医の先生が一緒に入ってくださるため診察の仕方や手技のコツなどを直接ご指導いただくことができ、安心して業務にあたることができます。研修医がファーストタッチをする機会も多く、2年間で多くの臨床経験を積むことができます。



セミナー・イベント

セミナー・研修会

田岡病院救急科の上山裕二先生をお招きし、救急医療に関する実践セミナーを毎年行っています。本セミナーは救急医療の魅力や、災害医療、心肺蘇生などの救急に関する知識を幅広く教えていただき、救急医療に必須のICLSの実技も行っています。そして1年次と2年次の各1回ずつ、基本的臨床能力評価試験を実施しております。今後力を入れるべき分野を把握し、初期臨床研修に役立てています。



イベント

市民の皆さんに徳島市民病院とその仕事を楽しく知ってもらうことを目的に、様々なイベントを用意し、市民の皆さんと一緒に楽しんでいます。夏季の恒例行事として医局主催のビアパーティーがあります。医師や看護職をはじめ、様々な職種が一丸になり、屋上のビアガーデンの心地よい風に吹かれながら飲み物を手に歓談します。また、徳島市民病院の阿波踊り連「眉誠連」で毎年徳島市内の演舞場で職員一同阿波踊りを行います。



「研修は厳しく、しかし楽しく」をモットーに、様々なイベント等を企画しています。



初期臨床研修医募集要項

応募資格	
大学の医学部または医科大学を卒業し、医師免許を有する者又は令和6年3月医師免許取得見込者	
募集人数	研修期間
7人	2年間
選考方法	
書類選考及び面接	
申込期間	
令和5年9月1日(金)まで	※申込期間を延長する場合がございますので、詳細は徳島市民病院ホームページをご覧ください。
選考期間	
申し込み受付後に日程調整し、応募者に通知します。	
提出書類	
・卒業(見込)証明書 ・臨床研修申込書 (当院HPからダウンロード可 http://www.city.tokushima.tokushima.jp/siminbyoin/)	
申込方法	
臨床研修申込書と卒業証明書、または卒業見込み証明書を徳島市民病院に持参いただくか、封筒表面に「初期臨床研修申込」と朱書きし、簡易書留郵便でお送りください。持参される場合は、平日(8:30~17:00)にお願いいたします。	
給与等	
基本給	1年次 月額319,000円程度 ※地域手当、特殊勤務手当を含む 2年次 月額330,000円程度 ※地域手当、特殊勤務手当を含む
賞与	給与の約2.6ヶ月分を支給
その他手当	時間外勤務手当、通勤手当、宿直手当、特殊勤務手当、退職手当
休日	土・日・祝日・年末年始(12月29日~1月3日)
休暇	夏季休暇3日ほか忌引、婚姻、育児等に係る特別休暇あり 任用期間に応じて年次有給休暇
社会保険	健康保険、厚生年金保険及び雇用保険は各法令の定めにより加入します。
災害補償	労災保険 ※2年目以降は、地方公務員災害補償基金の補償対象となります。
研修参加等	学会・研修参加などの旅費・参加費支給あり
育児支援	子育て中の医師の育児支援を行っています。 1. 育児休業 子が1歳になるまで取得できます。 2. その他、妊産婦検診、子の看護休暇等の特別休暇があります。
勤務時間	1日 7時間45分(8:30~17:00)
提出及び問い合わせ先	徳島市民病院 事務部総務管理課庶務担当 〒770 0812 徳島県徳島市北常三島町2丁目34番地 TEL:088-622-9323 E-mail:kanri@hosp.tokushima.tokushima.jp